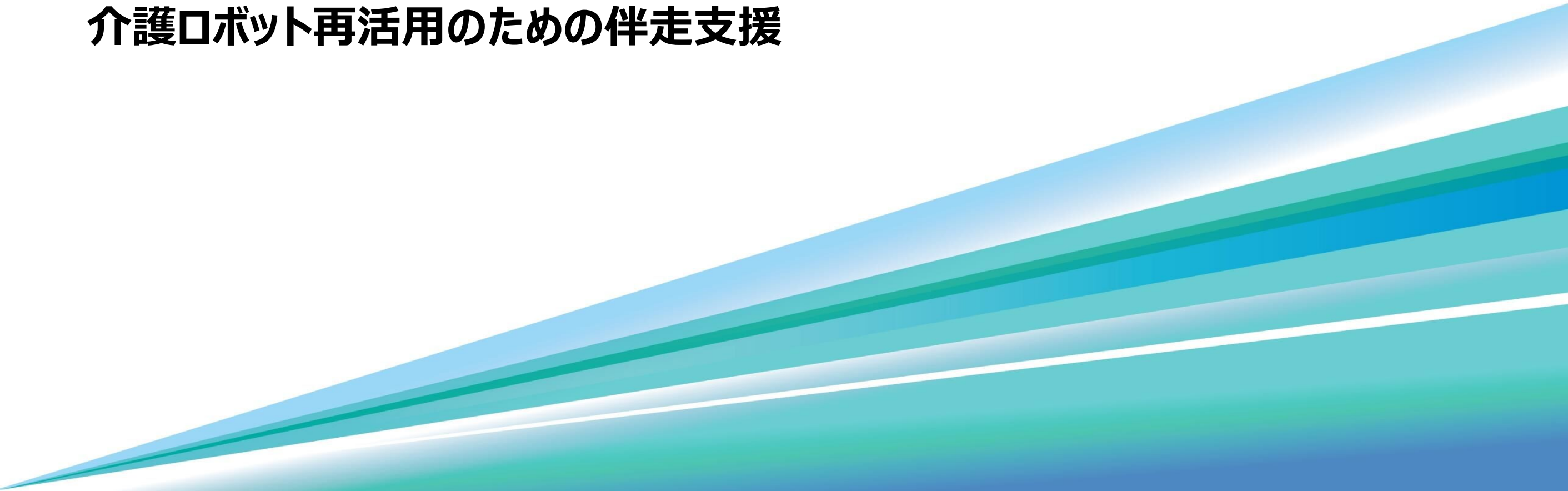


眠りスキャンのデータ活用により
個別ケアが推進された取組み
介護ロボット再活用のための伴走支援



施設概要

- **法人名**：社会福祉法人 兼愛会
- **施設名**：しょうじゅの里小野（特別養護老人ホーム）
- **住 所**：神奈川県横浜市鶴見区下野谷町4-145-18
- **定 員**：120名
- **理 念**：「親切と誠実」
当施設では、職員全員が常に誠意を持った、
心に寄り添う良質なサービスを提供することと、
ご利用者様の意思を尊重することを心がけてい
ます



プロジェクトの概要

- **ICT・ロボット等の導入状況**

眠りスキャン(20台)、リフト浴、ケアカルテ/タブレット

- **応募理由**

- 眠りスキャンのデータをもとに、利用者がどうすれば深い眠りを得られるのか、日中にどう過ごせば良いかなどを考えられるようになってほしい
- 今回の取組みを通して職員が自主性を上げたり、成長してもらう機会としたい

- **実施場所**

3階の2ユニット（利用者数：20名）

- **プロジェクトメンバー：**

リーダー 1 名、サブリーダー 2 名の計 3 名が主体

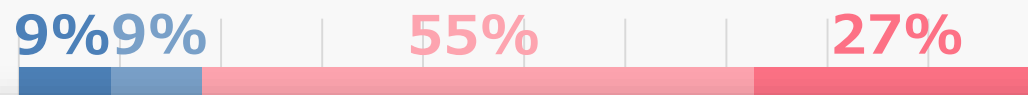


取組み前の課題

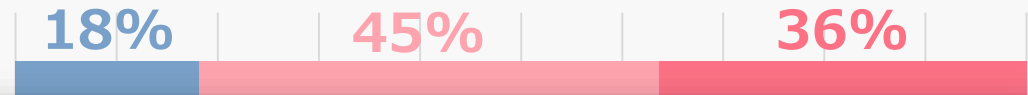
※合計値が100%にならない場合があります。
値を割って四捨五入して足し算している都合上です。

眠りスキンの有効活用はできていなかった

眠りスキンをうまく使いこなすことができますか？



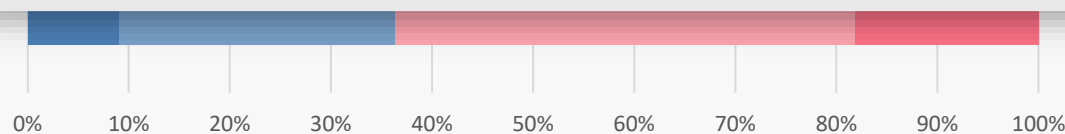
眠りスキンのデータを活用し、業務・ケアに活かすことができますか？



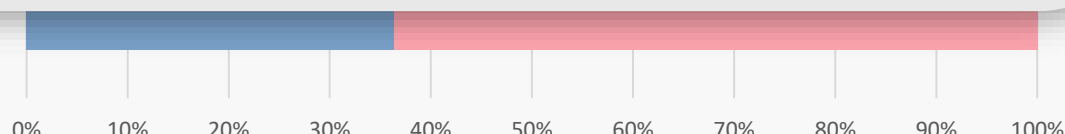
アンケート結果をもとに職員で対話を進めると

- ・ 眠りスキンはほとんどの職員が活用しておらず、活用方法がわかっていない
- ・ 利用者への関わり方に統一性がなく、個別的な関わりもできていない

といったことが見えてきた



■ とてもそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



■ とてもそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

介護ロボットの再活用 of 取組み

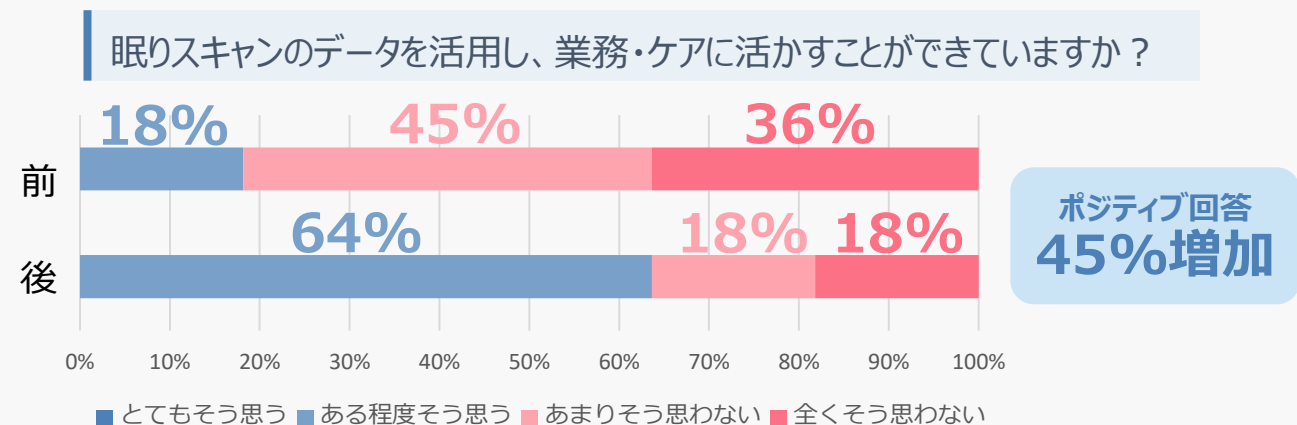
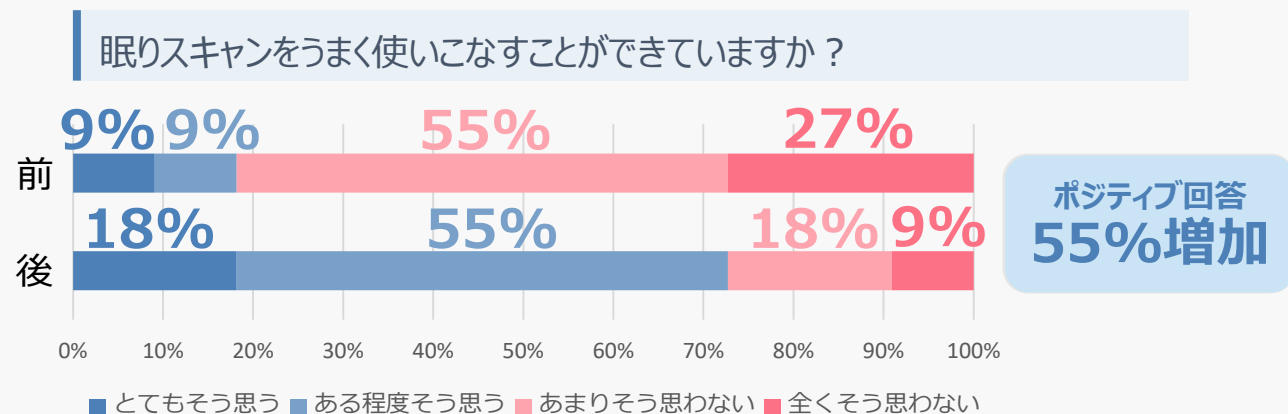
- ① 利用者のケア・対応の課題について棚卸し（体調不良者のリスク管理、入眠・睡眠時間のバラつき、職員都合のケアなど）→その課題の中で眠りスキンのデータ・機能で解決できることはないか検討
- ② 「眠りスキンの導入・活用マニュアル」を作成し、導入基準・目的、具体的な活用方法などを明確化
→眠りスキンを活用し、利用者のリスク管理、趣味嗜好に応じた日中活動を行うことによる睡眠状態の改善、利用者のタイミングに合わせたケアを推進することを目的とした

	導入基準	導入目的	具体的な運用方法			
			確認するタイミング	確認する人	確認するデータ	具体的なアクション
1	・看取りの契約をされた入居者 ・褥瘡予防シートの要注意がついた入居者の健康観察、リスク管理として導入	利用者の睡眠、覚醒、心拍・脈データを活用し、 個々の状態に応じたケアやリスク管理を行うこと で、利用者の健康維持と生活の質向上を目指す	2時、10時～11時、 20時～21時	夜勤：2時 早番or日勤：10時～11時 遅番：20時～21時	心拍、呼吸数 (心拍・呼吸日誌)	①心拍数を確認しバイタル欄に記録に入力 ②呼吸数を確認し状態観察欄に記録に入力 ③心拍・呼吸日誌で、心拍数、呼吸数の色を確認
2	・夜間の睡眠にバラつきがある入居者 ・日中に傾眠することが多い入居者の睡眠状況の把握の為に導入		毎出勤時	全職員	睡眠日誌	①日中に 本人の趣味嗜好に応じた活動（趣味やレクなど） する時間を作る ②活動をしたことによって 夜間の睡眠状況の変化を観察、それによって日中の傾眠の増減なども同時に観察する ③1週間ごとに評価・振り返りをユニットで行う
3	・夜間トイレ誘導をする入居者への声掛けのタイミングはかる為に導入	利用者の覚醒・睡眠状態に基づいた 最適な介助タイミングを提供すること により、利用者の負担軽減と介護業務の効率化を図る	22時、23時	夜勤	覚醒の有無	① 22時と23時に睡眠状況の確認 をする。どちらかの時間で覚醒していたらトイレ誘導を行う ② 覚醒しない場合は通常通り0時 にトイレ誘導を行う

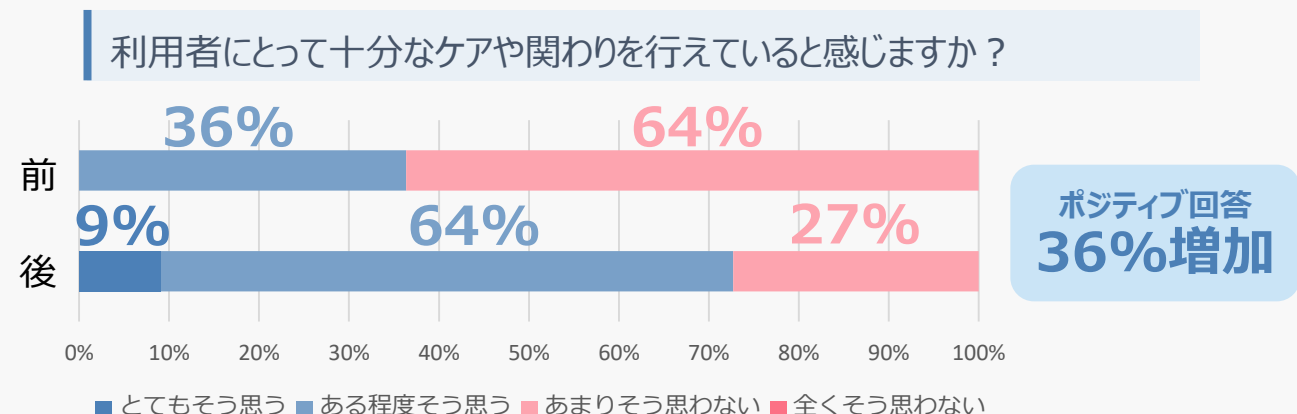
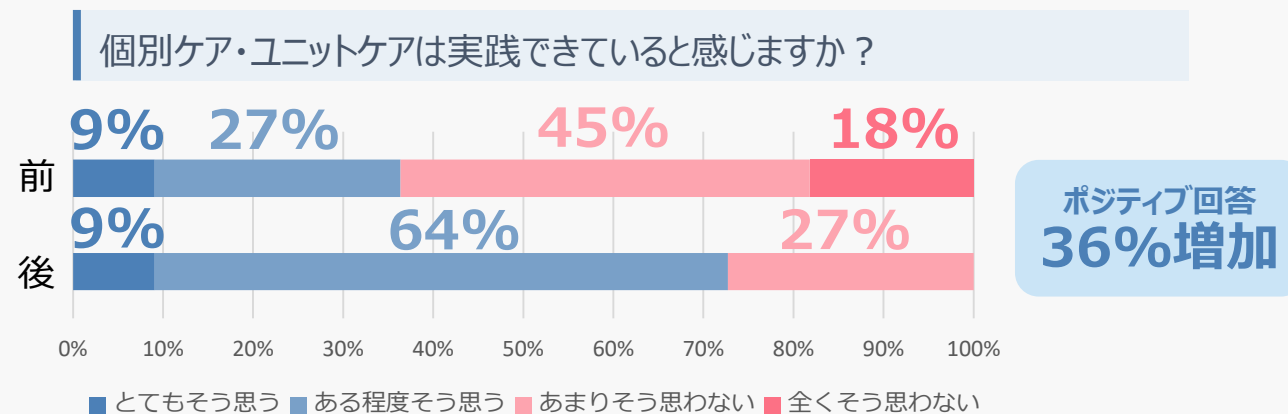
介護ロボットを再活用した結果

※合計値が100%にならない場合があります。
値を割って四捨五入して足し算している都合上です。

眠りスキャンを有効活用できるようになった



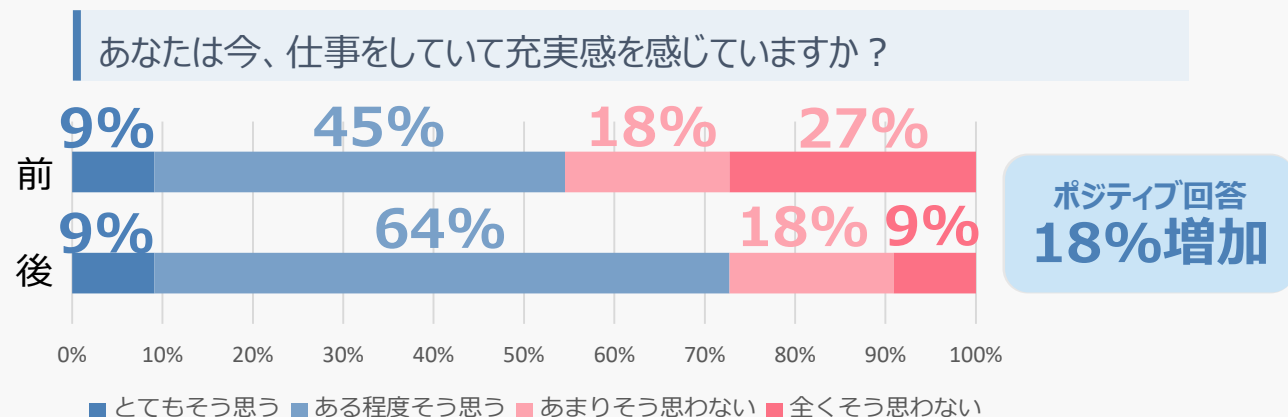
個別ケアや利用者への十分な関わりができるようになってきた



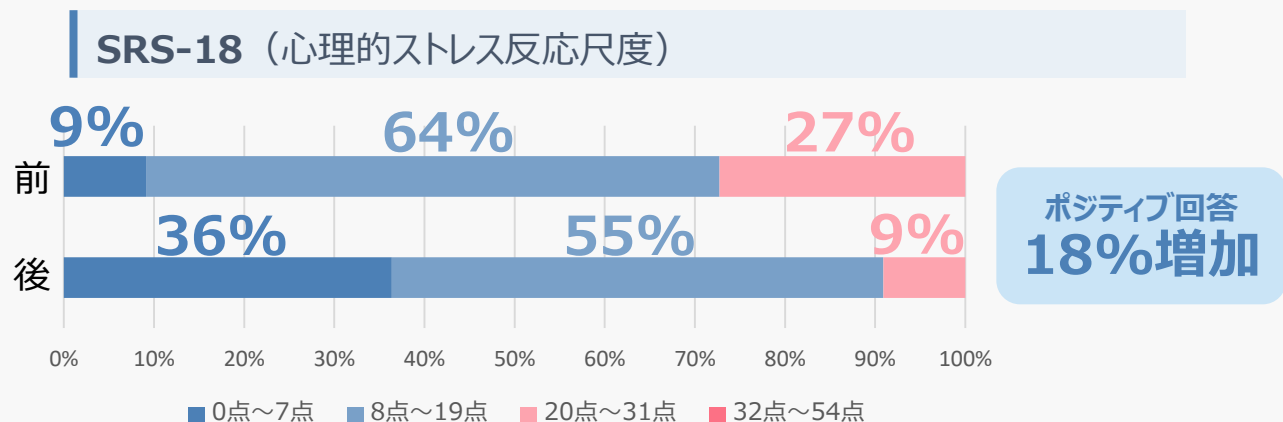
介護ロボットを再活用した結果

※合計値が100%にならない場合があります。
値を割って四捨五入して足し算している都合上です。

● 仕事の充実感が増えた



● 職員のストレス度が下がった



今回、眠りスキンのデータを活用し、利用者アセスメントが増えたことで
利用者に合わせたケアへの意識が向上し、ユニット全体での個別ケアが推進された
その結果、睡眠状態の改善までは至らなかったが、**意欲や活気が増えた利用者もいた**
さらに、**職員の仕事の充実感向上やストレス度の軽減にもつながった**

今後の課題

① データの分析を深め、個別ケアの精度をさらに向上させる

入居者ごとの睡眠傾向を詳細に分析し、夜間だけでなく日中の活動にも反映させることで、生活リズム全体を整えるケアを推進する

② 職員のデータ活用スキルを向上させ、チーム全体での活用を強化する

眠りスキンのデータを効果的に読み取り、適切なケアにつなげるための勉強会を定期的に行い、データ活用を現場の標準にしていく

③ 夜間ケアの質を高め、負担を軽減する

眠りスキンを活用し、必要なタイミングでの巡視・介入を徹底することで、入居者の睡眠の質を守りながら、職員の負担も軽減する

④ 家族への情報提供を強化し、入居者のケアとともに考える機会を増やす

睡眠データを家族にも共有し、ケア方針を理解してもらうことで、家族との連携を深め、より安心できる生活環境を整える

⑤ 他のテクノロジーとの連携を進め、施設全体のケアの質を向上させる

離床センサーや介護記録システムと組み合わせた活用を検討し、包括的なデータ分析を行うことで、より精度の高いケアを目指す